



図書館だより 11 月

秋が次第に深まってきました。木枯らし一号も吹き、冬ももうそこまで来ています。今年の秋は短いかもしれませんが、この美しい季節を十分に味わいたいですね。

さて、10 月 27 日（月）から 11 月 9 日（日）は読書週間でした。読書週間は 1947 年（昭和 22 年）、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という思いで制定され、現在まで続いています。電子メディアの発達によって、情報伝達の形は大きく変わりましたが、私たちにとって「本」が大切な役割を果たすものであることは変わりありません。親密な友人のように、みなさんの傍らにいつも本があってほしいと思います。

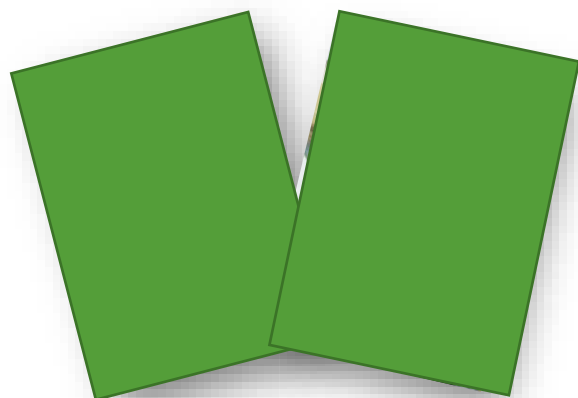


図書委員会より

図書システムの故障により、恒例の読書週間&ハロウィンイベントは中止になりました。楽しみにしてくれていたみなさん、申し訳ありません。現在は通常通りの貸出・返却ができますので、ぜひご利用ください！

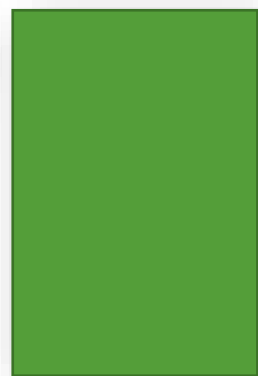
戦争

今年は戦後 80 年。戦争の悲惨さを体験した人が少なくなっている今こそ、必読！ 戦争について、平和について考えてみよう。



『帰郷』 『獅子吼』

浅田 次郎



『君と考える戦争のない未来』

池上 彰



『伝言』

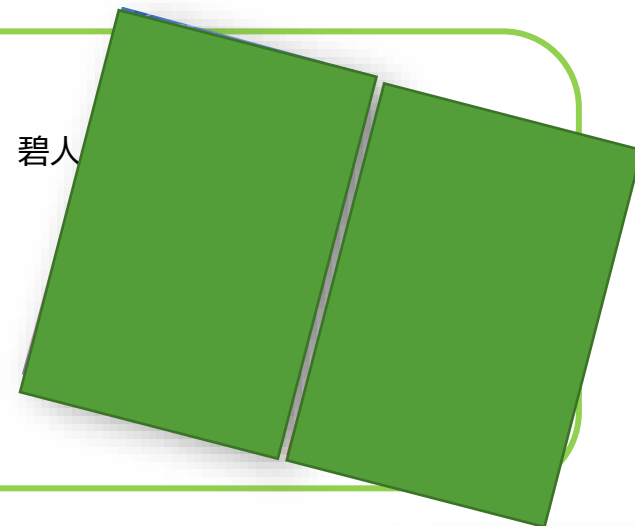
中脇 初枝

新着図書

ビブリオバトルのチャンプ本、話題の本、多数有り！図書室へGO！

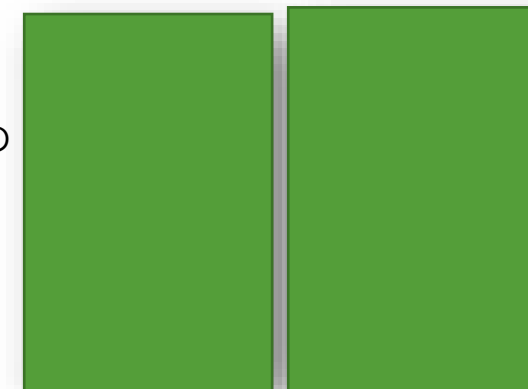
チャンプ本

『赤ずきんちゃん、旅の途中で死体と出会う。』 青柳 碧人
『片付かない二人』 村崎 なつ生
『言っではいけない』 橘 玲
『告白』『少女』 湊 かなえ
『いとエモし。』 koto
『ダチョウはアホだが役に立つ』 塚本 康浩
『好きです、死んでください』 中村 あき



『翠雨の人』 伊与原 新

科学の目的、それは人類を幸せにすること。
「なぜ雨は降るのだろう」少女時代、素朴な疑問を抱いたことから理系の道を歩んだ猿橋勝子。戦時下で科学と戦争の関係を問い続けた勝子は、戦後、ビキニ水爆実験による放射能汚染の実態究明に打ち込んでいく。



『そして少女は加速する』 宮田 珠己

コンマ1秒で悪夢に陥る、バトンミス。それは、あまりに儚く、あまりに永い、「一瞬」。00 分の 1 秒が勝敗を分ける短距離競技は、天国も地獄も紙一重だ。個人競技でありチーム競技でもあるリレーの魅力を、とことんまで描いた青春陸上物語。



『となりの史学』 加藤 陽子

近代の「戦争」と「世界」について、世界の第一線で活躍する歴史学者らが考え尽くした研究成果をわかりやすく解説。近代日本が戦争を交えた相手国【中国、ロシア、英国、ドイツ】との二国間での歴史共同研究をもとに、戦争終結後の和解と共存の真の方向性を探る。

他にもたくさんあります。読書の秋を楽しんでください！

『習慣の力』 チャールズ・デュヒッグ

『アラート』 真山 仁

『もしも料理店』 田丸 雅智

『デモクラシーのいろは』 森 絵都

『セツと八雲』 小泉 凡

『光と音楽』 大江 健三郎 etc.

